

# 消費動向調査

## 第4回「山形県家計消費動向調査」(概要※)

※詳細は調査レポート (<http://www.sfsi.co.jp/>) をご覧ください。

- 調査の目的** 県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 郵送調査専用モニターを利用したアンケート調査
- 調査の対象者** 県内に在住する勤労者(サラリーマン)世帯(世帯人数2名以上) モニター世帯数：417世帯\*  
※有効回答数：379世帯(回答率：90.9%)
- 調査期間** 平成19年6月1日(金)～15日(金)

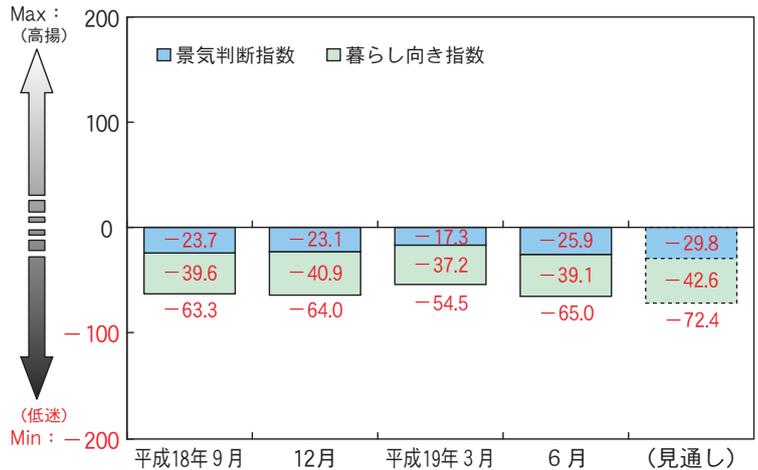
### 消費指数

#### ★消費指数は▲65.2 ～消費マインドは低調～

消費指数は前回調査時点(平成19年3月)よりも10.5ポイント低下し、▲65.0となるなど、消費マインドは依然として低調となっている。

消費指数の内訳は景気判断指数が▲25.9、暮らし向き指数が▲39.1となっており、いずれも前回より低下したが、特に景気判断指数が大きく低下したのは、物価の値上がりに対する警戒感が高く現れたことによるものである。

なお、今後の見通しについては、消費指数が7.4ポイント低下し▲72.4となるなど、低調のまま推移する見通し。



#### 【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

##### ①景気判断指数 (指数レンジ100～▲100) :

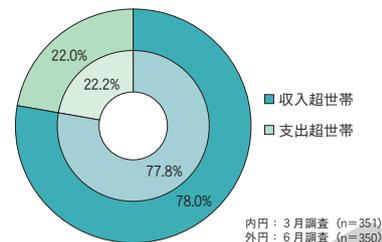
家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」に関する設問の回答結果から作成されます。

##### ②暮らし向き指数 (指数レンジ100～▲100) :

“我が家の暮らし向き”をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

(単位：円)

		3月	6月	前回差	
今月の家計簿	収入	①定期収入	272,217	258,734	-13,483
		②臨時収入	16,642	5,775	-10,867
		1. 世帯主の収入	288,859	264,509	-24,350
		①他の人員の定期収入	113,716	124,981	11,265
		②他の人員の臨時収入	5,205	4,375	-830
		2. 他の人員の収入	118,921	129,356	10,435
	3. その他収入	19,517	22,956	3,439	
	1. 収入計	427,297	416,821	-10,476	
	支出	1. 食費	54,273	55,315	1,042
		2. 住居費	45,543	46,022	479
		3. 水道・光熱費	28,039	25,064	-2,975
		4. 通信・交通費	29,722	32,134	2,412
5. 被服・装飾費		12,393	14,642	2,249	
6. 各種保険料の支払い		41,132	39,594	-1,538	
7. 医療・介護費		11,559	11,216	-343	
8. 育児・教育費		29,804	27,611	-2,193	
9. 仕送り		10,779	11,997	1,218	
10. 小遣い		36,825	41,970	5,145	
11. ローン・月賦の支払い		18,903	15,913	-2,990	
12. その他支出		31,386	40,462	9,076	
II. 支出計	350,358	361,940	11,582		
平均消費性向 (支出計÷収入計×100)		82.0%	86.8%	4.8%ポイント	



#### <平均的な世帯像>

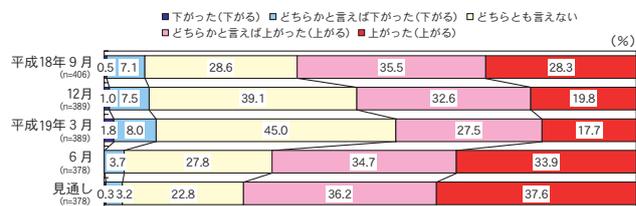
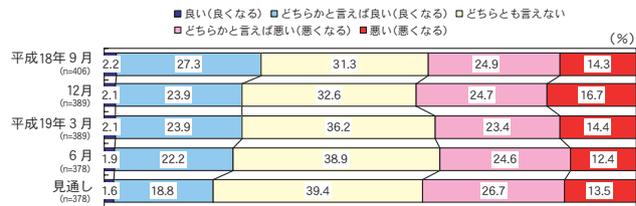
世帯主：48.0歳  
世帯人員：3.9人  
収入の担い手：1.9人

## ■ 景気判断

**県内景気** 現状認識は「悪い」(12.9%)と「どちらかと言えば悪い」(25.1%)が38.0%を占めており、前回調査時点と比べて県内の景気に対して暗い認識を持っている世帯が増えた。また、今後の見通しについても「悪い」(14.0%)と「どちらかと言えば悪くなる」(28.2%)と考えている世帯の割合が増え、42.2%の世帯が悪くなると予想している。

**雇用環境** 現状認識は「良い」(1.9%)と「どちらかと言えば良い」(22.2%)を合わせると24.1%が良いと判断しているものの、調査を重ねるごとにその割合は低くなっており、雇用不安が広がっている。また、今後の見通しについてもこうした傾向は変わらず、「良くなる」(1.6%)と「どちらかと言えば良くなる」(18.8%)と考えている世帯は20.4%にとどまっている。

**日用品価格(物価)** 現状認識は「上がった」(33.9%)と「どちらかと言えば上がった」(34.7%)が68.6%を占めるなど、日用品価格の値上がり感が再び加速している。また、今後の見通しについても、値上がり予想が過半数を大きく上回っており、物価上昇に対する警戒感は極めて高い。



## ■ 暮らし向き判断

**世帯(勤労)収入** 現状認識は「減った」(29.1%)と「どちらかと言えば減った」(22.8%)が51.9%を占めており、収入が減ったと感じている世帯が引き続き過半数を占めた。また、今後の見通しについては収入が「減る」と考えている世帯の割合が大幅に増えるなど、収入増の期待感は薄い。定率減税の廃止など、税制改正に伴う所得の減少を警戒したためだと考えられる。

**資産価値** 現状認識は「減った」(38.6%)と「どちらかと言えば減った」(21.2%)が59.8%を占めており、資産価値は減ったと感じている世帯が引き続き過半数を占めた。また、今後の見通しについても資産価値は「減る」と考えている世帯の割合が多く、資産価値の増加を見込む世帯は少ない。

**お金の使い方** 現状認識は「控えている」(32.0%)と「どちらかと言えば控えている」(30.4%)が62.4%を占めており、お金を使うことを控えているという世帯が引き続き過半数を占めた。また、今後の見通しについても「控える」という世帯が増えており、節約思考の世帯が一段と多くなっている。

**生活のゆとり** 現状認識は「厳しい」(41.1%)と「どちらかと言えば厳しい」(28.4%)が69.5%を占めており、暮らし向きが厳しいと感じている世帯が引き続き過半数を占めている。ただ、今後の見通しについては、厳しいと見込んでいる世帯は多いものの、いくぶん明るさを取り戻す見込み。

